

H24 年度上田高校社会講座報告

原田義則(65 期)

上田高校では H15 年度より、同窓会の協力を得て「総合的学習の時間」の大きな柱の一環として社会講座を開催(今回は 10 回目)していますが、今回関東同窓会経由でその講師として招聘され、9 月 13 日に 1 年生を対象とした講義をして来ましたので報告します。

上田高校では総合学習として 1 年次には「自己理解・高校生活の確立」、2 年次には「現代社会と自己の進路」、3 年次には「自己表現」をテーマとしているそうですが、特に 1 年次では進路ガイダンスの一環として「社会講座」を開講し、生徒達はその時点で興味ある学問・技術領域、関心のある職業の講師達の話聞く機会を設けています。

学校としては

- ① 社会についての見識を広める
 - ② 職業について知り、職業に対する興味・関心を高める
 - ③ 自己の目標の実現に向け、今後どのような高校生活を送ってゆけば良いか考える
- と言った方向で生徒の意識を高めたいと考えており、今年度は 文学、国際学、法学、教育学、理学、工学、医学、薬学、保健看護学、心理学、芸術、体育、マスコミの 13 領域の現役講師が招かれました。

各領域の講師は以下の通りです。

文学:	西澤	文昭	(63 期)
国際学:	小松	進	(68 期)
法学:	滝澤	修一	(70 期)
教育学:	竹鼻	ゆかり	(79 期)
理学:	松原	隆彦	(83 期)
工学:	宮川	俊晴	(68 期)
医学:	平野	龍亮	(94 期)
薬学:	原田	義則	(65 期)
保健看護学:	吾妻	こずえ	(91 期)
心理学:	渡邊	智之	(94 期)
芸術:	押金	美和	(94 期)
体育:	相馬	貴子	(84 期)
マスコミ:	五十嵐	洋人	(78 期)

講義に先立ち、講師全員と主催者側とが一堂に会し、事前打ち合わせの機会を持ちま

した。出張で不在の小林一雄校長(69期)の代理として宮坂栄治教頭(73期)が挨拶されたのち、講師の手配等で全面的に協力されている同窓会の日置勇二理事長(60期)の挨拶の後、滝澤学年主任による聴講生(1年生)の概要説明がありました。361名、9クラスの学年であり、男子180名、女子181名で一昨年に続き、2回目の女子生徒の方が多い学年とのこと。以前に比べて生徒間の学力差が大きいものの、三陸でのボランティア活動に70名が自主的に参加するなど、積極的な学年であるとの紹介がありました。

講師13名全員の紹介の後、各教室に分かれ20名から40名を対象とした90分間の講義が始まりました。私の「薬学」クラスには29名の聴講者があり、PCが数10台設置された階段状の情報処理実習室で実施しました。

私は自らの経歴を題材として「キャリア・パス(career path)を考える」と題して講義をしました。私はこうした講義を大学生や大学院生を対象として既に何度もしていますので、今回は高校1年生が対象であると一応は意識して分かり易いプレゼン資料を準備し、事前配布した積もりだったのですが、私のその認識は不十分でした。そもそも「キャリア・パス」という言葉を知っている生徒がゼロだったものですから、出だしから基礎用語の説明を強いられ、些か苦戦しました。

とは言え、最後に発表された4人の生徒の感想によれば、私が自らの人生の4回の大きな転機で考えたこととそれに対する現在の評価、私の伝えたかった事:「人生は何歳になっても(ある程度)やり直しは可能」、「批判するだけでなく、提案力を磨いて欲しい」などは十分伝わったものと思われ、今回の講義は一定の成果を上げたのではないかと自負しています。

最後に、現在私が教員をしている筑波大学へ是非進学して欲しい(今年の新入生は5名)との「大宣伝」をして、無事終了しました。

こちらから強く質問を催促するまで、質問が無い等、多少の不満は残りましたが、この講義の司会進行は生徒自ら実施するスタイルで、勿論、不手際は多々ありましたが、好感の持てるものでした。

長野県においても公立の中高一貫性学校の整備や、私立高校の強化、教育制度改革等の影響で以前に比べて上田高校生徒の相対的学力低下は現実のようですが、これからも何らかの形で支援して行きたいと思わせる生徒達でした。

主催者側による講義中の写真撮影はありましたが、講師自ら講義中の写真は撮れませんでしたので、事前に撮った上田高校の近影2葉を添付します。



校門近影



管理棟